

【事業実績】「次世代と地域文化をつなぐミュージアムプロジェクト(つなプロ) Ver. 2」

次世代を担う子どもたちが自らの地域の文化資源を巡り、愛着を深め、地域文化の継承を図ることを目的に、京都府京丹後市久美浜町の高龍小学校5年生29名を対象とした学習・体験ツアー等を実施し、発見した地域の魅力を「AtoZ」という手法を用いて冊子にまとめた。そして、子どもたちが学び感じたことを地域住民に向け発表するとともに、本事業のこれまでの成果及び今後のミュージアムを取り巻く課題と役割について議論を深めるシンポジウムを京都市内で開催した。

1 ふるさとの魅力再発見プロジェクト（地域文化資源体験事業）

【京丹後モデル】（地域リーダー：京丹後市立丹後古代の里資料館）

「高龍小学校5年生 RyuTuber がふるさとの古墳の魅力を発信してみた！」

(1) 事前学習&大学生との体験事業：令和4年9月22日・26日

- ・子どもたちが自分たちの住む地域の古墳や祭り等について学芸員から学び、考古学を学ぶ京都市内の大学生から古墳の体験授業を受けた。
- ・動画：<https://youtu.be/TS4p7Vu4roI>

(2) つなプロふるさと魅力発見ツアー：令和4年11月28日（月）

②体験ツアー：令和3年11月7日（日）

- ・須田平野古墳、湯舟坂2号墳等を子どもたちがクイズ形式で案内・PRする動画を作成、地域の魅力を発信するYouTuberとしてデビューした。
- ・動画：<https://youtu.be/2umHXZcRo2Y>

(3) 校内発表会&つなプロ発表会：令和4年11月5日・12月19日

- ・地域住民向けに、これまでの取組を創作劇等により発表、子どもたちがインタビュアーとなって、来場者と交流を行った。
- ・動画：https://youtu.be/CKXidRm_d2g（校内発表会）
- ・動画：<https://youtu.be/0V7v0ICjkuQ>（つなプロ発表会）

(4) 成果物作成：令和5年1月12日・18日・20日

- ・小学校授業のなかで、学芸員・大学生と一緒に今回学んだことをAからZの言葉で表すワークショップを行い、まとめたものを冊子として制作
- ・成果物：「[高龍AtoZ](#)」



参加者（高龍小学校5年生29名）アンケート結果

- ・29名中28名がつなプロに参加して「満足」と回答
- ・86%が事業実施前と比較しふるさとへの思いが「変わった」と回答
- ・80%がふるさとを学び・体験・発表する取組を「またやってみたい」と回答

参加者の声

- ・学習発表会では古墳やハニワ、土器などのことや、つなプロのことについて伝えられてよかったです。劇をしたのも楽しかったです。
- ・最初は「古墳って小さいし、有名なところじゃないんだろうな〜。」と思っていたけど、「つなプロ」に参加して、久美浜にある古墳は大刀も出てきていて、本当にすごいところなんだということを知った。

子どもたちの取組発表を聞いた地域の方の声

- ・子ども時代に地域の宝を知ることが大切なんだと思った。
- ・小学生が思った以上に頑張って成果を上げていたのでビックリした。地元にも知らないことがあったので楽しく見せてもらった。一度現場に足を運びたいと思わされた。
- ・本で見るより、大人から聞くだけより、一番生きた体験ができて一生忘れない勉強ができたと思う。

2. つなプロ Web コンテンツ制作（地域拡大・展開事業）：令和5年2月1日（水）公開

- ・これまで「つなプロ」の取組を進めてきた3地域「宮津」「亀岡」「京丹後」のモデル事業が一目でわかる体験ツアー動画やA t o Z 冊子の掲載、マップ機能など、次世代にも興味を持ってもらえるようデザインされたW e b コンテンツを開発
- ・サイト URL：<https://museumforum.pref.kyoto.lg.jp/tsunapro/>

3. 「次世代と地域のことを真剣に考える」つなプロシンポジウム（つなプロ理念発信事業）

- ・令和5年3月11日（土）キャンパスプラザ京都（会場参加・YouTubeにてライブ配信）
- ・会場参加者数 28名 YouTube 29名 合計：57名
- ・内容
第1部：「つなプロ」地域モデルの取組報告
第2部：講演「次世代と地域文化をつなぐAtoZ」
第3部：パネルディスカッション「次世代と地域文化をつなぐためにミュージアムに何ができるか？」
- ・動画：<https://youtu.be/hJwxuiKxY4E>

パネルディスカッションでの主な意見

- ・都会に比べ文化に触れる機会が少ない子どもたちに学芸員・地域の大人が協力し、多様な世代間で事業に取り組めたことがよかった。
- ・1回の出前授業では見えない子どもたちの反応が1年をとおして関わることで見えた。
- ・学芸員と子どもたち、双方向のやりとり時間に時間をかけることが大事だと思った。
- ・学校現場の総合学習をどう進めるかについて、つなプロが外枠を示すことができた。
- ・活動の「見える化」が次世代の学びにとって大事。A t o Z や取組の動画化は良い方法。
- ・地域の魅力的な方と一緒に取組むことが大事。
- ・A t o Z のような既存のツールを課題解決型学習に利用することは手近にできる方法と気づいた。
- ・地域に大学生がおらず交流の機会が限られているのが現状。大学と連携することで、都市部の大学生と子どもたち（学校現場）をつなぐことがミュージアムの役割だと感じた。
- ・「ノウハウの共有」がなかなか出来ていないと感じるので、皆で共有しあって頑張っていきたい。
- ・「組み合わせ」が大事。そこから新しいものを作っていく。
- ・地域文化に触れることは人生を豊かにする、その気づきをミュージアムが中心となり作って行けたら。

来場者の声

- ・ミュージアムを通して、世代や地域の枠組みを超えた交流を積極的にしていくことが、地域文化の活性化に繋がると思った。
- ・各地域の特色の違いから、この事業の持つ枠組の広さと深さを感じた。
- ・学校のカリキュラムや人やお金といった課題をどうクリアしていくか、仲間をつくって知恵を出し合ったら乗り越えていけるのではと少し希望をいただいた。
- ・困ったことや課題についても話していただいたのがよかった。成果と課題どちらも知りたい。仲間を集める、連携することによってうまれるものにわくわく感を感じました

来場者アンケート結果

第1部：71%が「満足」、29%が「だいたい満足」

第2部：79%が「満足」、17%が「だいたい満足」、4%が「あまり満足できなかった」

第3部：71%が「満足」、25%が「だいたい満足」、4%が「あまり満足できなかった」